

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 26 日作成)

委員会名	鋼構造地球環境小委員会	主 査 名：岩田 衛
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	当小委員会は、地球環境問題に対応する建築鋼構造の取り組みを検討する。具体的には、建築鋼構造のライフサイクルにおける環境負荷の概念に対する理解を深め、環境負荷削減のために、建築鋼構造の設計において取り組むべき課題と方針を明らかにする。さらに、これらに基づいた諸問題を整理して、啓発書を取りまとめる。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：岩田 衛(神奈川大学) 幹事：山田 哲(東京工業大学) 委員：伊藤茂樹(鋼管計測)・千田 光(住友金属)・長尾直治(神戸大学)・吉田文久(大和ハウス工業)・近藤 学(東京電力)・井ノ上一博(竹中工務店)・正岡典夫(バコーポレーション)・小見康夫(小見建築計画)・林 幸男(鹿島建設)・角田 誠(東京都立大学)・名木 稔(クリーン・ジャパン・センター)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	350,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	1. 5 月 7 日(6 名) 2. 7 月 4 日(5 名) 3. 9 月 25 日(10 名) 4. 12 月 11 日(9 名) 5. 2 月 13 日(10 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2002 年度日本建築学会大会(北陸)では「建築鋼構造における環境性とは何か!」というパネルディスカッションを企画し、委員会成果の中間発表とそれに対する意見交換がなされた。このたび、その目的とした啓発書を取りまとめることができたので、その発表と議論を求めてシンポジウムを開催する(2004 年 6 月 30 日)。シンポジウムの内容および発表者を次に示す。</p> <p>1. 環境性とその対応(神奈川大学・岩田 衛) 2. 環境性からみた各種鋼材の特性(鋼管計測・伊藤茂樹) 3. 建設用鋼材の資源循環と環境負荷(住友金属・千田 光) 4. ビル構造における環境負荷低減(神戸大学・長尾直治) 5. 低層建物における環境負荷低減(大和ハウス工業・吉田文久) 6. 火力発電所における環境負荷低減(東京電力・近藤 学) 7. 基礎・杭関連における環境負荷低減(竹中工務店・井ノ上一博) 8. 塔状構造物のメンテナンス技術(バコーポレーション・正岡典夫) 9. 鋼構造建築における環境性と耐震性(東京工業大学・山田 哲) 10. 鉄骨造建築物のリノベーション(小見建築計画・小見康夫) 11. 鋼構造(超高層ビル)のリニューアル(鹿島建設・林 幸男) 12. 鋼構造建築物のリユースの可能性(東京都立大学・角田 誠) 13. 企業の環境責任の拡大とその推進手法(クリーン・ジャパン・センター・名木 稔)</p> <p>委員会 HP アドレス:</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画に基づいた成果をあげた。
その他評価すべき事項	目標を 100%達成したので、委員会を廃止する。